

| | |
|-------------|---|
| Title | (1)基研研究部員会議議事録 |
| Author(s) | |
| Citation | 物性研究 (1967), 8(2): 161-170 |
| Issue Date | 1967-05-20 |
| URL | http://hdl.handle.net/2433/86027 |
| Right | |
| Type | Others |
| Textversion | publisher |

資料

(1) 基研研究部員会議議事録

1967年 2. 16~17

於 基研小講義室

| | | | |
|-----|----------------|----------|-----|
| 議長 | 中野董夫・小野 周・田中 正 | | |
| 出席者 | 運営委員 | (17名中) | 10名 |
| | 研究部員 | (30名中) | 22名 |
| | 所 員 | (7名中) | 7名 |
| | オブザーヴァー | | 2名 |
| | 研究計画提案者 | | 9名 |

} 39名

議 題

1. 議長団報告
2. 基研報告
3. 新研究部員承認
4. 外人招聘
研究計画に関するインフォーマル・ミーティング
5. インフォーマル・ミーティング報告
6. アトム型などの運営について
7. 研究計画決定
8. 任期制度について
9. 国・公・私立大学間の流動について
10. 国際交流について
11. 将来計画関係
12. その他

1. 議長団報告

(イ) 研究計画提案決定のあり方について

Informal meeting を最初に行い、予算に触れずに内容の議論をした後 Informal meeting 報告で大体の枠づけをし、個々の予算は世話人の話

資料 1.

し合いで案をつくる。決定の時は、報告に対して全員で検討する。

(ロ) 祝賀パーティの件

湯川所長の還暦を祝して、研究部員会議主催のパーティを行う事になった。
17日(金) P.M.6:00 から、楽友会館にて、パーティ欠席の研究部員会議構成メンバーからも記念品代を頂く。記念品は置時計と決定(但、Jecoの音叉時計)

(ハ) 基礎物理学研究所職員研修旅行の件

今年度5名行なった。

良い結果が得られているので今後も他の人を計画したい。

2. 基 研 報 告

人 事 (10月以降の移動のみ)

河原林 研： 11月1日付 助教授に(東大教養より)

片山 泰久： 11月1日付 京大工学部原子核工学へ

星崎 憲夫(予定)： 3月1日付 京大工学部原子核工学助教授に

アトム型

江夏 弘 (立命大・教授) 10月より6ヶ月

鳴海 元 (広大・理・教授) 10月より3ヶ月

柏村 昌安 (名大・理・助手) 11月頃 1ヶ月

田中 友安 (American Catholic Uni.教授) 12月頃 1ヶ月

木下 紀正 (東大・理 D₂) 11月半ばから1ヶ月

大貫 義郎 (名大・理・助教授) 2月, 1ヶ月

招聘外人

H. Haken (ジュッガルト理論物理学研究所)

G. Landaner (Institut für Plasmaphysik) 3ヶ月

K. Friedrichs (New York Univ.)

R. Phillips (stanford Univ.)

Y. B. Kim (Bell Telephon Lab.)

Lattes (サンパウロ大学教授) 3月予定

3. 外人招聘

4 2年度予定

| | | | |
|---------------|------------------|------------------|---------------|
| B. Sørensen | (Nordita) | 3ヶ月 | …… A. Bohrの弟子 |
| A. Bohr | (Copenhagen) | 1ヶ月 | } 原子核国際会議出席 |
| H. Bethe | (Cornell) | 1ヶ月 | |
| M. Baranger | (U.C.L.A.) | 1ヶ月 | |
| A. de Shalit | (Weizmann Inst.) | 1ヶ月 | |
| C. Block | (Saclay) | 1ヶ月 | |
| N. Lane | (Harwell) | 1ヶ月 | |
| E. Wigner | (Princeton) | 1ヶ月 | } 宇宙線関係 |
| B. G. Wilson | (Calgary) | 3ヶ月 | |
| W. Heisenberg | …… | 滞在費は不要・仁科・湯川財団奨助 | |

(4月16日～5月15日)

B. Vitale (6ヶ月)

Laverick (ANL)(1ヶ月) 冷温国際会議(4.9～15)出席

P. T. Matthews (Imperial College)

A. T. Lea (Copenhagen Inst.)

E.H.Roffman (Princeton 高等科学研究所)

今年度は、国際会議があつて希望が多いので、全部は無理である。基研で適当にアレンジして来て頂く事にする。

物性関係

- 43年度に統計力学の国際会議があるので願ひする。
- 4月の学会の時に中国人を招聘する可能性があつたが延期になつた。

京大外人宿舎の件

(事務長) 外人宿舎が完成した。

- 家族用居室(6) 夫婦用居室(6) 単身用居室(3)
- 使用料月額(光熱費含む)

家族用23,100円, 夫婦用18,900円, 単身用9,000円

使用する場合は、早目に手続きを完了したい、又、1ヶ月単位でない、

資料 1.

滞在費の予算と結合している人は難かしい。

4. 新研究部員承認

新研究部員は次のように決定した。(任期 42. 4. 1~44. 3. 31)

素粒子論関係 (11名)(得票順)

| | |
|-------------|-------------|
| 池田清美(東大・理) | 広重昇(広大・理) |
| 丸森寿夫(九大・理) | 猪木慶治(東大・理) |
| 山本邦夫(阪大・教) | 飯塚重五郎(金沢・教) |
| 植原正行(九大・理) | 西島和彦(東大・理) |
| 藤井寛治(北大・理) | 原康夫(東教大・理) |
| 大槻昭一郎(九大・理) | |

次点 井町昌弘 磯親

物性論関係 (5名)

| | |
|--------------|---------------|
| 中島貞雄(東大・物性研) | 豊沢豊(東大・物性研) |
| 富田和久(京大・理) | 守谷享(東大・物性研) |
| 三輪浩(阪大・理) | 次点 都築俊夫(九大・理) |

* 研究計画に関する Informal meeting

素粒子論関係(座長・小川) 原子核関係(座長・安野)

物性論関係(座長・芳田)

に分れて説明・討論が行われた。

5. Informal meeting 報告

| | |
|----------------|--------------------------|
| 42年度に予想される員等旅費 | 670万円 |
| 研究部員会議・運営委員会 | 110 |
| 自由研究費 | 30 |
| 研修旅費 | 5 |
| アトム型奨学生的なもの | 60 |
| 長期・短期 | 40 + α |
| 談話会 | 10 + β |
| 計 | 255 + α + β |

を差し引くと $415 - (\alpha + \beta)$

$$\{415 - (\alpha + \beta)\} \times \frac{2}{3} \approx 280 \frac{\text{万円}}{3} (\alpha + \beta)$$

となる。今回応募の旅費請求総額は676万円，校費額は141.3万円であった。

6. 研究計画決定

議論の末以下のように，決定した長期，短期所属も一部変更した。

| 研究会名 | 世話人 ^{or} 出席者 | 旅費 | 校費 | 参加者人数 & 場所 |
|----------------------|------------------------------|------|----------------|-----------------|
| ＜長期研究計画＞ | | | | |
| 1. 素粒子の模型と構造 | 牧 二郎 松本賢一 大貫義郎 | 20万円 | | |
| 2. 高エネルギー素粒子反応 | 武田 暁 三宅弘三 川口正昭 | 15 | | 30名 |
| 3. 宇宙線加速器領域における素粒子物理 | 大場一郎 長谷部勝也 福井市男 広重昇 | 15 | | 25名 |
| 4. 核構造と弱い相互作用 | 藤井昭彦 森田正人 山田勝美 | 17 | 30万円(計算①) | 30名(2回) |
| 5. 天体物理の諸問題 | 杉本大一郎 松岡勝 田原博人 | 5 | | 20~25 (10日間) |
| 6. 原子核における4体相関 | 玉垣良三 有馬朗人 丸森寿夫 田中一 | 13 | | |
| 7. 宇宙線による素粒子の研究 | 藤本陽一 長谷川俊一 | 7 | 5 (アナリシス計算) | |
| 8. 多体問題(短期に変更) | 沢田克郎 宗田敏雄 | 25 | | |

資料 1.

| | | | | |
|--------------------------------------|---|------------------|-------------------|-------------------------|
| 9. S 行列と対称性 | 原 康 夫 河 原 林 研 佐 藤 行 夫 山 本 邦 夫 | 25 ^{万円} | | 20~30 ^名 (2回) |
| 10. 相 転 移 | 桂 重 俊 森 重 肇 | 30 | 10(計算C) | 30~35(2回) |
| 11. 量子統計的凝縮系 | 碓 井 恒 丸 中 嶋 貞 雄 石 井 力 恒 藤 敏 彦 都 築 俊 夫 | 10 | 3(印刷C) | 25 |
| <短期研究計画> | | | | |
| 1. 原子核における集団運動 | 池 田 清 美 | 12 ^{万円} | | 15 ^名 (3日基研) |
| 2. Non-leptonic Decay | 藤 井 寛 治 古 井 伸 哉 井 本 三 夫 横 尾 田 松 | 15 | | 20(基研) |
| 3. 素粒子の時空記述 | 湯 川 秀 樹 高 村 武 彦 原 片 山 泰 久 | 10 | | 20 |
| 4. 相対論的 2 体方程式による核力の分析 | 室 田 敏 行 | 30 | 30(計算C) 20(賃金) | |
| 5. Higher Resonance | 益 川 敏 英 木 下 紀 江 小 林 庸 治 | 10 | | 15(2回) |
| 6. Polarized Target を用いた素粒子原子核の研究と開発 | 堀 川 直 顕 政 池 明 長 谷 川 武 夫 諏 訪 茂 樹 | 18 | | 25(2日) |
| 7. 量子統計的凝縮系 | 碓 井 恒 丸 恒 藤 敏 彦 都 築 俊 夫 | 10 | 3(印刷C) | 25 |
| 8. 計算機シミュレーションによる多体問題の研究 | 大 林 辰 蔵 矢 島 信 男 松 田 博 嗣 高 木 修 二 長 谷 川 晃 上 田 直 顕 萩 田 直 史 | 0 | | 30 |

| | | | | |
|-----------------------------------|--|-------------------|---------------------|-----------------------|
| 9.星の進化 | 林忠四郎 | 20 ^{万円} | IBM 15(計算C) | 25 ^名 (5日間) |
| 10.原子核国際会議の準備 | 有馬朗人 宮嶋竜興 堀江久一 田中一 藤田純一 野上茂吉郎 高木修二 吉田男朗 | 30 | | 30(3日) |
| 11.1967年核構造国際会議議 のためのサマースクール | 吉田思郎 上村正康 | 0 | | (日光かなやホテル) |
| 12.非周期系物性の基礎理論 | 松原武夫 堀淳一 松田博嗣 米沢富美子 | 15 | | 30(2回基研) |
| <モレキュール型> | | | | |
| 1.秩序・無秩序現象の電子計 算機によるSimulation | 上田 顕 萩田直史 松原武夫 松田博嗣 | 5 | 6.3 (磁気テープ) | 理研 & 京大 |
| 2.生成高分子の π 電子論 | 宮田 隆 大野公男 福留秀雄 松田博嗣 米沢富美子 | 0 | 5(計算C) | 基 研 |
| 3.1 Gev 前後の強い相互作用 について | 米沢 穰 亘和太郎 古市 進 | 5 | 15(計算) | 市大 or 広大 |
| 4.原子核の回転運動と Non-linear effect | 庄野義之 丸森寿夫 山村正俊 池田清美 | 5 | | 広大 or 九大 |
| 5.原子核における集団運動の 非調和項の分析 | | 2 | | |
| 計 | | 319 ^{万円} | 151.3 ^{万円} | |

7. アトム型の運営について

- 41年度後半に、試験的に短期(1ヶ月)の制度を置きやってみた(16

資料 1.

万円)。42年度は短期・長期(3~6ヶ月)合わせて(40+ α)万円あれば(min.)運行できると思う。

α = 数万円

- 大学院学生の短期アトムが増える可能性がある。
 - * 判断が難かしい。
 - * もともとは忙しいスタッフのために設けた制度ではないか。
 - * 学生がしばらくよそへ行く事は、非常に有効だから、大いに利用させるべきだ。
 - * 若い人には、費用は旅費、宿泊費位で、アシがでない程度で良い。
 - * 場合によっては、拡大談話会に来て頂く事も考えられる。
- 人選費用については、基研所員会に任せる事になった。

8. 任期制度について

アンケートをとった結果、返事は研究機関7,旧所員6であった。そのまとめの報告と意見は大体次のようになる。

- 任期制の積極的意義は、殆んどの人々が認めている。
- 基研の任期性については、大部分が賛成であるが、教授については、ゆるくしても良いのではないかという一部の意見。
- 制度としての任期制はなくとも、実際にはかなり交流が行われている。
- moral obligation ではどうか。
- 地方の場合には、グループの特色を作る必要上、任期制の画一的適用は危険。
- 住宅問題を何とか解決できないか。共同利用研である任期があるという事で、公務員住宅の優先や交代が不可能か。又研究所の住宅を持ってないか。
- 他が動かないとやりにくいだが、基研は現状を維持してほしい。

<提案> D.C.を持つ国立大学に於いては、次のような申し合わせをしてはどうか。

- (1) 自分の大学の卒業生を、スタッフとして採用しない。
- (2) 内部昇格を制限する。

このことを、次の研究部員会議で、議論する。任期の切れる研究部員はそれ

について意見を出すこと。と決定。

9. 国公立大学間の流動について

国、公、立大学間を転職した場合に、給料の点、恩給、退職金等の問題があるので、自由な交流がさまたげているという意見が、前回の研究部員会議で指摘され具体的な問題点を調べるために、小委員会が結成された。

(中野・町田・川口・高木)

<小委員会からの報告>

(1) 公立・私立→国立

それまでの経験年数が、フルに数えられず、一部分を2/3に数えられたりする事がある。

(2) 住居の問題

(3) 退職年金及び退職金は、国私立間ではひきつがれない。

英国、米国の例では、国立、私立の大学が同一の共済組合に加入していて、そこに加入している大学間を、移動する場合には、退職年金、退職金は引き継がれる。

これらの問題点を改善してもらうために、学術会議の待遇委員会に主旨を伝える役目をし、又、次の研究部員会議までに、具体的な要望案を検討するための委員会を結成。

(小野・古市・川口)

10. 国際交流について (報告・小野)

アンケートをとった結果をまとめた。(資料参照)

これに対して、意見がいくつか出された。

- 政府に大巾な予算要求を行おうではないか。
- Invited lecture をする人、座長になる人に対しては文部省に何人かの枠で金がある。
- 研究者が、自主的にコントロールできる場所が必要。
- 外国人の滞在費と共に、旅費を請求すべき。
— 概算要求で毎年出している —
- サマー・スクールについても、賛否両論がある。

資料 1.

11. 将来計画関係

高木，小川，安野 3 氏から，素粒子研究所（仮称）その他についての報告が行われ，それについて質問，議論が出された。

（評議会のあり方） （専任の問題）

12. その他

(イ) 計算センターの件

（小野）今までの機械の 6 倍の能力をもつ 5020-E 運転が最近は非常に混んでいる。

料金 5020-E 200円/min.

5020 100円/min.

41年度のみ，公，私，立は無料

上京して，大型計算機センターを利用する場合，debug run に限り，依頼した計算結果を待たずに受けとる制度がある。

（詳細はセンターの係の者に問い合わせ下さい。）

（田中一）チェック・プログラムが開発盛。

(ロ) 基研助教授の人事について。

（湯川）星崎氏が 3 月 1 日付で工学部へ行かれる事になった。後任の性格について議論して頂きたい。

○これについて，若干の意見が出されたが，分野は「広い意味での素粒子論」という傾向であった。

(ハ) 秋の物理分科会について

谷川氏より，神戸大学に会場（素・原・宇）が決っているが，生物の方と重なったので，他に考えられないかとの相談が出された。

（文責・議長団）